

誤解を恐れずに言えば、結局のところ住人のセンスが良ければ、例えばんな家であろうと良く見えてしまうんです。

最近のインテリア雑誌で、やたらと目を引くリフォーム特集や、セルフレッドの実例を見て思った感想です。建築の外観デザインの良さとか、空間構成に関係なく、インテリアの良し悪しは、住む人の人となりがかんちと出てくるから面白いものです。

だから住人が、センス良く暮らしているのを見ると、それがその住人っぽさなんだと納得してしまうのです。

「なんだか、居心地がよさそうだな」って。

でも、私とまったく同じ感想を持つ人ばかりとは限りません。だって、居心地は人によって千差万別ですからね。高級リゾートホテルがいいと言う人もいれば、場末のホテルの方が、気を使わなくて落ち着けると言う人もいますから・・・

ソファはポール・ケアホルム、壁には超薄型の大型液晶ディスプレイ、ダイニングセットはジャン・ブルーベ。食器は60年代のもので、ベットのカバーも同じくレトロパターン。ディーン&デルーカのコーヒーセット。冷蔵庫はエレクトロラックス。キャビネットの上には、Macのモニターとバンクアンドオルフセン。照明はポール・ヘニングセンで、足元にはカールテルのシックなプラスチックのゴミ箱。洗面台はスタルクのデザイン。ドアノブはレトロなハンコック。もちろんバックグラウンドミュージックはボンジュールレコードからのセレクト。部屋の植物はコーデイナーターに厳選してもらったもの。それらがさり気なく置いてあるわびさびをつくした空間も、「最高!」と言う人もいれば、「最悪」と嘆く人もいます。ファッションと似てますね。ブランド物で身を固める人もいれば、それを毛嫌にする人もいますしね。

居心地がいいということ。 ZUIUN便り Vol.21

服に機能性を求める人は、動きやすかったり、保温性があつたりするほうが着心地がいいと思うでしょうし、機能性よりも、デザインや色合いを重視する人は、多少の着にくさがあつたとしても、多少寒くても、それを着ていたほうが気分がいいはず。つまり「着心地がいい」という事です。

その服が客観的に見て似合っていると、この人は自分の事を理解しているんだな・・・オシャレだなんて・・・コーデイナーターの助言なんて必要ありません。

しかし、そんなにオシャレな人が町中に溢れている訳ではありませんし、オシャレにまったく気を使わない人だっていっぱいいます。

一方で、オシャレに興味を持っていても、自分に似合う服を模索している人だって多いはず。そんな人は、たくさん情報を収集して、自分の好き嫌いを見つける「自分探し」をします。

家づくりも同じです。例え賃貸アパートに住もうとも、自分自身で居心地のいい空間を作ってしまう人もいれば、情報収集して、自分の価値観に合う居心地を求めて「自分探し」をする人もいます。

私たちの仕事は、クライアントの「居心地の良さ」をつくっていると言っても過言ではありませんが、難しいのは、決して自分の価値観を一方的に押し付けるのではなく、あくまで客観的な立ち位置で、クライアントの意図を汲み取り、クライアントの口からこぼれるわずかなキーワードを頼りに、考えをまとめたり、曖昧で漠然としたものを整理していきます。そしてようやく「居心地の良さ」にたどり着くのです。

だからZUIUNで建てた家は、基本的なコンセプトはベースにあつたとしても、完成する家はいろいろです。住む人にとって、毎日の日常を過ごす「居心地のいい場所」が完成している訳ですからね。

ZUIUNの内覧会は、そんな「居心地のいい場所」のお披露目です。

「居心地のいい場所」

の内覧会。

4/28・29・30

5/3・4・5・6

場所：金沢市長土堀地内

居心地の良さを体験していただく為に、

完全予約制とさせていただきます。

詳細は、www.zuiun.jp のメール

フォームか、076-213-5505に直接

お申込みいただきますと、詳細情報を

返送させていただきます。